

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



告別式詞を奏上される島村先生



多数の参列者がお別れをした



懐かしの大教会神苑を後に

笠岡大教会四代会長夫人・上原せい子様は8月30日、出直された。享年88歳。
大教会世話人・島村廣義本部員齋主のもと、みたまうつしは31日午後7時から、告別式は9月1日午前11時から、それぞれ大教会講堂で執り行われた。
告別式当日は、あいにくの雨にもかかわらず家族、親族、大教会役員、部内教会長、よふぼく、信者ら多数が参列しお別れをした。

笠岡大教会四代会長夫人 上原せい子様 出直される

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教176年
9月号



絆深めた合宿

8月9日から15日まで、親里で恒例の「学生生徒修養会高校の部」が開催され、1千362人が受講した。(笠岡からは、男子9人・女子10人の計19人が受講)
学修では、レクチャーやグループの時間、おてふり・鳴り物練習、ひのきしんなどのプログラムが組まれており、この

をやの膝元で
 過ごした一週間
 学修高校の部
 学生担当委員会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)では、8月15、16の両日「あらしとつりよう入門塾」を開催、学修・高校の部に続いて参加した高校生、天理高校生など、笠岡につながる男子高校生7人が参加した。
この行事は、高校生のうちから青年会行事に親しみ、あらしとつりようとしての自覚を促そうと開催しているもので、今年で3回目。
初日は、焼肉を囲んで高校生と青

あらしとつりよう
 入門塾
 青年会
 暑い、熱い夏に開催!

他、各寮での行事や、受講回数別に、十三峠越えや、十二下りてをどり、神名流なども行われた。
親里での一週間の合宿生活を通して、生徒たちは教えを学び、祈り、それぞれに信仰を深めていった。
また、本音で語らい、笑い、時に涙し合えるような、お道の学生同士の絆を深めた。

年会スタッフとの懇親を計った。
夕づとめ後、大教会長様より、青年会員の心構えなどについての講話があり、一同真剣に聴き入った。
翌日は、早朝より教会内のひのきしんに汗を流した。
その後、委員長の話に続き、親睦タイムとなった。
親睦タイムでは、参加者全員でゲームを行い、大いに盛り上がった。また、紙ひこうき大会や宝探しも行い、終始和やかな雰囲気だった。参加者は、同じ笠岡の青年会につながる者同士の懇親を深め、今後の青年会活動への参加を誓った。



お話を真剣に聴く

<実行目標>人のたすかりを願いましょう



おたすけ・お願いカード 集計：13,425枚

平成25年7月21日～8月20日

平成25年累計：53,154枚





木の枝も運び出す

8月17日、8回目となる有志ひのきしん隊が、海松ヶ岡分教会(岡山県笠岡市)に出動し、13人が参加した。
教会の山手側に生える草木を、草刈り機などを使って分担して整備した。

**第8回「有志
ひのきしん隊」実施**

青年会



テッチャンシアター

**第3回「家族揃って
月次祭参拝」開催**

8・21 祭典後

少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)では、少年会員が教会の月次祭に参拝することに触れ、喜んでもらえるよう、大教会の祭典日(21日)が学校の休みの日を利用して今年4月21日(日)から「家族揃って月次祭参拝」を開催。8月21日(夏休み中)で3回目。今回も大勢の少年会員達が参加した。

皆さん、「テッチャンシアター」ってご存知ですか？少年会笠岡団では、大教会の祭典日(21日)が土、日、祝日又は夏休みに少年会員が、たくさん参拝してくれそうな日に企画・開催しているものです。たとえば教祖の紙芝居を読んで少し神様のお話しに触れてもらったりして、後はお菓子のお下がりを配ります。8月は暑かったので昼食後にかき氷をして中庭で食べて頂きました。9月には又違った事を計画しています。わずかな時間の中で、ささやかな事です但至少でも神様のお話しや大教会の祭典が子供たちの心に残ればいいなあと思っています。

有難いこのお道のみ教えを子供たちにまた、次の世代に伝えていくのは信仰する私達大人の責任であると思います。こうした子供たちの休日参拝を利用して「親子揃って教会参拝」が何とか一回でも多く増える様、この旬に縦の伝道に力を入れたいと思っています。

『みんな、また来てネ、待っています。』

(少年会委員からの投稿)



真剣に受講される

育成部(吉岡壽部長)では8月21日、大教会8月月次祭後、会議室で「三日講習会」をテーマによぶく勉強会を開催、約17人が参加した。今回のテーマについて吉岡弘子講師(興明分)は、自らの体験を通して懇切に講話をされました。引き続き同テーマについての質疑応答もあり有意義に終講した。勉強会に先立ち月次祭終了後、神殿で同部おたすけ掛員より一人におさづけが取り次がれた。次回の勉強会は9月月次祭後、「をいがけ」について行われる。

よぶく勉強会開催
テーマは「三日講習会」
 8月月次祭後
育成部

第16回笠岡団野外錬成会
(キャンプ)開催される
少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)恒例のサマーキャンプが、おちばの「さんさいの里」を会場に、8月22日から24日の2泊3日で開催された。このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌感じるとともに、たすけあいを実践し、そこに喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に、実施される行事。8月20、21日、資材を確認、不足資材・食料等を購入、ワゴン車に荷物を満載して出発の準備を整え、当日を待った。

1日目

8月22日午前7時45分、絶好のキャンプ日和、少年会員13人、スタッフ9人総勢22人、大教会神殿に参集し、2泊3日の無事を親神様・教祖にお願いし、大教会長様より「喜びと感謝、たすけあいを実践して楽しんで頂きたい」と挨拶を頂き、おちばに向けて出発、正午過ぎおちばに到着、本部神殿に参拝の後、午後2時おちばより北に約10キロさんさいの里に到着。山の中で涼しいと思いきや下界と同じ、気温35度そんな中、急な坂道を各自重い鞆を抱えてテントサイトへ。続いて資材



思い切り楽しむよ

搬入、そして入所式・オリエンテーション。終わると早速夕食準備。初日の夕食はキャンプ定番のカレーライスと野菜サラダ。野菜を切る人、米を量り洗う人、煙で目をこすり咽せながら薪でカレーを炊く人と、キャンプペースがお互いにたすけあい協力しながら作ったカレーに野菜サラダ。御飯におこげがあっても、野菜の大きさが不揃いでもそこには笑顔。みんなでおいしくいただきました。



「さんさいの里」でのサマーキャンプ

続いて夕べの集い、山の中にこだまする拍子木の音に感動しながら、今日一日の御礼を申し、旗降ろし、キャンプ長挨拶、入所の各団体(4団体)の工夫をこらした自団体の紹介、笠岡団にもこんな才能があるのかと思った紹介、最後にキャンプならではの心に響く歌。

そして日は暮れ、辺りは隣の人の顔も見えぬほどの暗闇、いよいよキャンプファイヤー場に入場。

どこからともなく又音もなく火矢が飛んでき、薪に着火。ワーとの感動の叫び。「燃えろよ燃えろ」の歌声と共に火はだんだんと大きくなり、いよいよメインイベント。この日はスタンツファイヤー、歌やゲームと共に各団体これまた工夫を凝らした出し物。爆笑しながら順番を待つ。心臓の鼓動も最高潮、練習もした、それでも不安、ついに笠岡団がコールされた。1班は笠岡団のあたりまえを歌った今はやりの「あたりまえ体操」、2班は各配役へなりきつての「ドラえもん」。実にみんな輝いている。

テントに帰るとランタンを頼りに班ミーティング、おやつ。そして寝袋に入つての就寝。1日目
が静かに終わった。親神様・教祖ありがとうございます。2日目
がありました。(ちなみにキャンプに慣れない武内正美団長は一睡も出来なかったそうです。)

2日目

鳥のさわやかな鳴き声と共に心地よい目覚め。このまま書き続けると長くなるので、以後はさっと流します。朝の集い(ご飯とみそ汁)↓ピザ作り(生地からこねて1次発酵、延ばして、トッピングして石窯へ)↓昼食(ピザとフルーツポンチ……白玉を作り各自持参したくもの缶詰をシャッフル、深い味わい、実においしい)↓野外ゲーム(ペタンク)↓焼板作り↓夕食(みんな

でわいわいバーベキュー)↓夕べの集い↓ナイトウォーキング(むちゃくちゃ怖い)↓班ミーティング・おやつ↓就寝。雷は怖いけど、今日の疲れには勝てず、あつさり爆睡。)

3日目

雨音と共に起床↓朝の挨拶↓朝食(ご飯とみそ汁)↓資材返品・撤収準備(雨の中の撤収は大変だ)↓退所式↓一路おぢばへ↓本部参拝↓詰所へ↓昼食(マクドナルドのバーガー……これもおいしい)↓一路大教会へ↓閉会式↓解散

最後に

強い日差しあり、雷あり、そんな中にも木々の間から注ぐこぼれ陽と木々の間を渡るそよ風、朝のさわやかさ、鳥の起床コール、せみの鳴き声、谷川のせせらぎ、夕焼け、夜の暗闇、静寂さ。目に耳に、そして、身に心に自然を感じた2泊3日。普段何もかも整い、教会と言えども文化生活を送るお互いであって、こうして自然と向き合い、あえて生活の苦労をすることによってお互いがたすけあう。そこに親神様の御守護を再確認し、何でもない平日頃に感謝、そして大きな大きな喜びを感じざるをえないものでした。

さんさいの里キャンプに参加して

海松ヶ岡分教会 森本しほ(小6)

8月22日から24日のキャンプで、天理のさんさいの里へ行きました。キャンプでは、たくさんの行事がありました。

1日目は、カレーを作りました。お米もほんごうで炊いたし、山の上からの景色を見ながら食べたのでとてもおいしかったです。夜は、キャンプファイヤーをして、班毎で出し物をしたのがおもしろかったです。暗い道を歩くのも怖かったけど、テントで寝る時、なかなか眠れずに、私だけ起きていたのは、もつと怖かったです。

2日目は、ピザをかまどで焼いたり、フルーツポンチを作って食べました。全部おいしかったです。

3日目は、朝「旗上げ」をしました。昼には焼いた板に色をぬったり字を書いたりするクラフト工作をしました。私がこのキャンプで一番心に残った事は、色んな場所で「たすけあい」という言葉が使われていた事です。いつもそんな心で過ごせたらいいなあと思います。毎年違う所へ行くので来年はどこへ行くのか楽しみです。友達もできるし、行事もいっぱい絶対楽しいので、あなたも参加してみませんか？

全分会布教推進週間

たすけの渦を巻き起こそう

青年会

にをいがけ強調月間のスタートを飾る、恒例の『青年会全分会布教推進週間(9月1〜8日)』。

笠岡分会でも各ブロック、分会で活動を展開した。その中、青年会委員が中心となるキャラバン隊では、岡山、福山、笠岡、府中の各市内において活動を行った。

4日の岡山市内の活動では、興明、笠尋、錦ヶ原の各教会を拠点に、台風の影響で雨が降る中、神名流し、戸別訪問を行った。

今後、笠岡分会では、青年会本部のスローガン、『たすけの渦を巻き起こそう』に沿った活動を展開し、全分会での実働を目指している。



一軒ずつ訪問

毛布襟付けひのきしん

婦人会

婦人会(上原きよ子支部長)では9月3・4の両日、婦人会員ら延べ118人が参加して、詰所宿泊者、大教会信者室用の毛布襟付けひのきしんを行った。3日は午後から行い53人が参加。4日は生憎の大雨警報の中にも65人が参加し午前9時から講堂、信者室に別れて行い昼食後解散した。



手際よく襟付けする婦人会員たち

里庄レッドスネークス 全国V

森本善修君・森本陽気君所属

— 全日本ドッジボール選手権 —



優勝杯を胸にVサインの森本兄弟

よしのり
森本善修君(笠岡小6年)・森本陽気君(同小5年) — 海松ヶ岡分教会長、森本忠善さんの三男・四男 — は去る8月25日行われた第23回全日本ドッジボール選手権全国大会(東京体育館)に岡山県代表の里庄レッドスネークスのメンバーとして出場、同チームは岡山県勢初の優勝を果たした。

7月28日、28チームが参加して行われた県予選で優勝、全国大会出場となった。

同大会は、47都道府県代表と昨年、優勝県からのチームを加え48チームが参加した。

試合は、出場チームを12リーグに分け、予選3試合を行い、その中から24チームが決勝トーナメントに進んだ。同チームは、予選を1位で通過。決勝トーナメントでは1回戦、2回戦、準々決勝、準決勝と各試合、接戦ながら勝ち上がり、決勝で奈良県代表チームを破った。

同チームは、3年前に結成。笠岡市と里庄町の小学5、6年の男女15人で構成。春夏連続3回目の出場で念願の初優勝。

チームで主将の善修君は「入部して以来の夢だった全国制覇が出来てとても嬉しいです。優勝した瞬間は涙が止まりませんでした。今まで指導、応援して下さいました皆様へ感謝しています。弟と2人揃ってカラーコートの上で優勝の瞬間の感動が味わえて嬉しい。アジア大会でも優勝目指して頑張りたいです」。

また、陽気君は「念願の日本一になりました。一つ一つの試合を、絶対に勝つぞ!という気持ちで戦いました。皆の気持ちが一つになったから優勝出来たと思います。決勝戦では特に、どんなボールがきても絶対にキャッチするぞ!と心の中で叫びながら戦いました。アジア大会でも絶対キャッチ、頑張ります」と抱負を話した。

同チームは、12月に東京で開催されるアジア大会に日本代表として出場する。

温故知新

いきいきレポート 28

(承前)

そのはづやといてきかした事はない

なにもしらんがむりでないそや (一〇)

それで、今までは数々の教えの道、あるいは、心を治めていく修養を教えてきたが、それは親神さまが陰に廻って教えてきたのである。親神さまが直接に表へ現れて教えたということはない。だから親神さまのお心が何も解らないというのも無理ではないと仰せ下されているので

以上二つのお歌のはじめの歌、すなわち「よろづよの・・・」は、月様のお心として、今までのいろいろ心をつくしてきたけれども、どうもその心を知ってくれている者はない。親神さまはなぜ人間を創められたか、それは陽気ぐらしをさせるためである。ところが人間世界をみると、陽気ぐらしをしている者はなくて、むしろけんかをしたり不足を思ったりで陽気ぐらしどころか、その逆になっている。これでは親神さ

まの望みと大きく違う。だから、むしろ元の泥海のような形にしてしまったらいいのではないかと、月様が仰せられた。

すると日様が、「そのはづや、今までに説いたこともないのだから無理もない」とおなだめになって、元のどろ海にすることはやめていただきたいと言われたと聞かせていただいた事があります。それがおてふりにも現れています。

おてふりは理振りとも言います。現在「そのはづや・・・」の手振りはたてなげと言われていますが、一体理振りとは何でしょうか。手振りの根本となるのは、なげ・いさみ・ふりの三つの手です。なげとは、投げる格好をしているからそう言います。この理は互い助け合いという理です。いさみは夜昼の理。すなわちいつのまにか昼になり、いつのまにか夜になるという形です。ですから、これは静かに振らしてもらわなければなりません。ふりは昔はいやいやとか、ないないの手と言われておりました。それもきつく振ると、静かに振るとで、意味が違ってきます。ですからこういうところを気をつけて心に治めてやってもらわねばなりません。それで「よろづよの・・・」「そのはづや・・・」

のたてなげは、月日両神が、ご相談なさっている理と聞かせて頂きました。

このたびは神がもていあらはれて

なにかいさいをといてきかせる (一一)

月日親神さまが元のどろ海にしてしまおうか、いや、今まで説き聞かした事がないのだから何も知らないのも無理でない。それならこの度表へ現れて、どんな事も一切説き聞かしてやろう。だからそれを真の心から承知するように。そしていよいよ旬刻限が来て表へ現れる。即ち教祖の身体を神のやしろとして親神さまが表へ現れて御心の中をすっかり説いて聞かすから承知するように、という含みを持っているお歌です。

この度とは天保九年十月二十六日、旬刻限が到来して教祖が神のやしろにお定まりになった日、すなわちこれは立教の日なのですが、親神さまがお降りになったのは、これに先立つ天保九年十月二十四日です。

何故かと言いますと十月二十三日に教祖は腰痛、秀司様には足痛、また夫・善兵衛様には目の痛みがあり寄加持をしようと、この二十三日に、早速修験者の市兵衛を呼びにおやりになっ

たのです。ところが、市兵衛はそういうことならば、すぐ段取りをしなければと翌二十四日から準備を始めたけれども、いつも加持台をつとめるおそよがないので教祖にお願いして替わりをつとめてもらおうということになり、教祖が御弊を持って加持台に上がったのです。そして市兵衛がお祈りすると、教祖の様子が変わられました。市兵衛が「何様がお降りになったのですか」とお伺いすると、「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一列をたすけるために天降った。みきを神のやしろに貰い受けたい」とおっしゃった。こうして二十四日に神様がお降りになり教祖は神がかりされたのです。

しかしこの時お道が始まったのではなく、親神さまがお降り下さって「みきを神のやしろに貰い受けたい」とおっしゃったが、二十四・二十五・二十六日と三日間の押問答があり、夫・善兵衛様はお断りになる、親神さまはいろいろと言っ下さる。それでもなかなか承知できない。二十年三十年経ったなら解ると言っ下さる。しかし善兵衛様は人間は二十年も三十年も待つことはできませんと言っお断りになる。しかも今たちまち困っている。だからそういうことは御免こうむりたい。ところが教祖はその間、ご飯はお召し上がりにならない、無我夢中で御弊は畳にすりついてしまい、しかも手から血が出ている。その姿をご覧になって善兵衛様はこれではいかん、と一年前からのいろいろな出来事を思い浮かべられた。すなわちこの神がかりに先だつて秀司先生の足は一年に十度も痛み、修験者を呼ぶことが何度もありました。いろいろ思い巡らされた上、昨年からの事などが重なって今日の事になってきたのではないかと思われ、二十六日の朝に至つてそのおもむきを承知なさつたのです。それが天保九年十月二十六日朝五ツ刻(午前八時)です。善兵衛様が承知なさつて教祖は神のやしろとおなりになったのです。これからお道が始まったのです。神がかりだけを考えますと、神様は三日も降りておられます。そして人間が承知をしてお道をお始めになったというところに、親神さまの親としてのお心持ちが伺われると私は思います。

このところやまとのしバのかみがたと
ゆうていれども元ハしろまい (一四)

この「かみがた」という言葉ですが、昔から京都を中心に関西地方を上方と言います
(以下次号)(前史料部長)

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

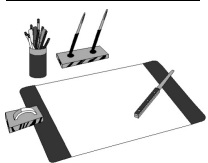
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



タンザニア伝道記



第5回タンザニア布教に参加して

芳井分教会 佐藤 和代

今年6月末、教会長夫妻おやさと研修会に参加させていただき、その興奮冷めやらぬままに、その2日後、私にとつての3回目のタンザニアの地を踏むため、飛行機に乗りました。

「今回の私の役目はなんだろう？ こんな私ですが、きっと神様の思いはちゃんとあるはずだから……」とやや開き直りのような気持ちで、自分を奮いたたせこの旅に挑みました。

タンザニアの支援は今年で5回目、岡山県内

外より集めていただいた衣料や文具などを現地に届けます。そして実際に施設などに伺い、子供たちの様子を見たり触れ合ったりして、本当にこの支援が役に立っていることを毎回のことながら実感します。

ただ、「この人たちが本当に助かっているか？」と考えると「うーん！ どうだろうか？ このような支援を世界中からして貰い続けることにより、自力でこの国を良くしようという思いを邪魔してはいないのか？ 神様の目から見たらどうだろう？」こう思うのです。

イスラム教の教えの中にくっついていて人を裕福な人が助けてもそれは当然だ！ そういうような教えがあるそうです。

少なくとも私達、支援させていただいている方は、「いらなくなったからではなく使っていた文具でも本当に喜んで使ってもらえるならありがたい。私たちはもっと自分たちの生活を見直して、今あるものに感謝の気持ちを持って行きたい。」と、本当に自分自身の心を助けていただきながら、支援の輪を広げていくことが出来ていると信じています。

しかし、もしも支援してもらえないことは必然で、裕福な人たちは貧しい国の人々を援助するのは当然だ！ という思いだけが先行してしまうのなら、



子供たちとの触れ合い

きつとこの国は自分の足では立つことができなくなるに違いありません。

そして、私たちの信仰こそ、今この国の人々に本当に必要な「感謝のこころ・たすけあいのこころ」を気づかせてくれるものに違いない。私は、そう強く感じました。

今、置かれている現状に感謝しつつ、我が身一番ではなく他の人の助かりを願うことができた時に、本当にこの国の人々は助かっていくのかも

れないと思います。

しかし、実際には、生きるか死ぬかという状況下にある人間は、本当に目の前のことで必死で、本能のままに行動してしまう。これは仕方のないことなのかもしれないと思います。

いずれにしても、この国に生活してこの国の人々と過ごす！これをなくして、この国は語れないなど痛感しました。

私にとつては3回目のタンザニアで、ドラエスラームという首都での滞在を前半後半に持つていき、中の日程はアルーシャという街へ行きました。ここでは3年前に行きそびれた日本料理店へ行くことができました。この店主と少し話をする中でこの国の全く違った一面を垣間見ることとなりました。

それは、この国が安全な国かどうか？ 本当に親切で優しい人柄なのか？ という部分でした。きっと、現地に住み、そこで暮らし、関わって行く中で、そこしかわからない問題も関われば関わるほど湧いてくるんだろうな？ とこの支援に對しての自分の存在がいかにちっぽけで無意味なものなのか！ ということを思い知らされました。

ちよつと落ち込みながらも、その日本料理店で、数々のちよつとふしぎなメニュー表から「握り寿司」を注文し、志郎先生の「えええ!!」という視線を浴びながらも、頂くことができました。お味

は……ご想像通りです。

この旅の中で少し時間がとれた時がありました。ドラエスラームのマウンガさんの自宅から少し外へ出てみる事ができました。志郎先生と二人でをいがけに行くことにしました。

ある家の庭に沢山の洗濯物が干してあり、そこへのおんびり座っているおばあさんを見つけました。おばあさんはスワヒリ語しかわかりません。

私たちは持ち合わせのスワヒリ語の書かれた用紙をちらつかせながら会話しようとしたのですが、言葉は伝わっていなかったのかもしれない。もう少し会話が成り立つように勉強しないと……いつもの反省ですが……。このおばあさんとのコミュニケーションはとても楽しく、これは、国境を越えて、言語を超えてるな！ とんだかとても楽しく会話できました。怪しい奴らが、うちの婆さんを……と思つて途中少し英語のわかるお嫁さ



タンザニアの握り寿司

ん？ が来てくれて、そのおばあさんが、カンフーが好きだとか、今、藁のようなものでゴザのようなものを編んでいるんだなどの情報が後から分かりました。89才のファトゥーマさんという愉快なおばあさんで、歯や足、背中が痛いようで志郎先生と一緒におきづけを取り次がせていただきました。

きつとまた会うときには、笑顔で迎えてくれると思います。

毎回のことですが、タンザニアで思ったこと、感じたこと、これは特別な宝物になります。あの時あの場所で、何を感じていたか？ 誰を思っていたか？ とつても大切な思い出です。これらが私のそれ以降の糧になっているような気がします。

ただ、タンザニアに限らず、日々の様々な生活の中にも似たようなことは沢山ありますし、感激で涙が止まらないことだつて日々の中で私たちを待ち伏せしてくれているような気がします。

きつと、気づくか、気づかないか？ その気づきのスイッチの入りやすいのが遠方だったり、大変な中を何とかして動かしていただけるときだったり、するのかもしれないが、全ては日々の普通の生活の中にあるような感動や感謝の気持ち、早く気づいて欲しいと私たちを待っていてくれるのかも知れません。

教会おとまり会の報告

▼福山隊

実施日 25年7月6日(土)～7日(日)

1泊2日

参加者数 少年会員13人 育成会員2人

合計15人

プログラム

6日 17:00 集合
 (土) 18:00 夕食
 18:30 夕づとめ
 19:00 入浴
 21:00 パフェ作りみんなで食べる
 22:00 ふとんをひく
 消灯

7日 5:40 起床
 (日) 6:00 朝づとめ
 7:00 朝食
 8:30 ハートクリンに出発
 11:00 終了。教会に帰る。
 12:00 教会の外でドッジボールを
 して遊ぶ

所感 ハートクリン強調デーにあわせて、させてもらいました。

前日はパフェをみんなで作り、楽しくにぎやかにすごすことができ、みんなたのしそうでした。ドッジボールももりあがり、解散するのがおもしろいかなんじでした。子どもおちばがえりにもたくさん参加してくれるよう願っています。

▼高屋隊

実施日 25年8月6日～7日

参加者数 少年会員12人 育成会員9人

合計21人

プログラム

6日 16:00 集合
 (火) 18:30 勉強
 夕づとめ
 19:00 夕食 入浴 遊び
 消灯

7日 5:30 起床
 (水) 6:00 朝づとめ
 6:30 朝食
 8:00 川遊びへ出発 バーベキュー
 15:30 帰会 閉会

所感 教会では特に何もさせず、自由に遊ばせています。その方が子どもは喜んでいきます。どこでもできるおとまり会です。

▼吸江隊

実施日 25年8月6日(火)～7日(水)

1泊2日

参加者数 少年会員17人 育成会員12人

合計29人

プログラム

6日 15:00 受付
 (火) 16:30 お話し ゲーム
 17:10 おつとめの練習
 夕づとめ
 18:00 遙照山出発 風呂

7日 6:00 起床 洗面
 (水) 7:30 朝食
 8:30 勉強
 9:30 水泳
 12:00 解散

所感 多くの方のお力添えにより、プログラム通り楽しく進行する事が出来ました。親神様のお働きに対しては言う迄もなく、協力して下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

▼廣町・福廣隊合同

実施日 25年8月8日(木)～9日(金)

1泊2日

参加者数 少年会員6人 育成会員5人

合計11人

内 容 朝づとめ、夕づとめ、ひのきしん、

神様のおはなし、お風呂 どこかへ出かける、食事等。

所 感 2日に子供団参より帰り、間もない

ことで、なかなか参加出来なかったようで残念です。

食事を作ることや、準備(配膳)したり後片付

けしたり楽しく出来ました。男の子が一人(6年生)だったので朝食がすんだら帰ってしまい残念です。保育園児に母親と一緒に泊まって下さり食事の手伝いもして下さり助かりました。実施させて頂き大変良かったと思います。

▼弓ヶ濱隊

実施日 25年8月8日(木)～9日(金)

1泊2日

参加者数 少年会員11人 育成会員5人

合計16人

所 感 特にプログラムは作りませんでした。

あまり出会いの少ない二従姉弟たち11人(5

家族、小学生9人、幼児2人)に夏休み中の月

次祭に参拝し、バーベキューで楽しもうと声かけしてみました。同時に11人が集うことはできませんでしたが、その日の内に11人は参加してくれました。

そして8人が撒餞ひのきしん、夕づとめ、バーベキュー、花火に参加し、21時に散会となりました。内3人はお泊まり会になりました。

参加者数 少年会員19人 育成会員8人

合計27人

プログラム 9日 17:00 教会集合

▼海松ヶ岡隊

実施日 平成25年8月9日(金)～10日(土)

1泊2日

参加者数 少年会員19人 育成会員8人

合計27人

プログラム 9日 17:00 教会集合

(金) 15 夕勤め

45 夕食(バイキング)

19:00 入浴

20:15 室内オリンピック

22:00 消灯

10日 6:00 起床

(土) 6:30 ひのきしん

7:00 おつとめ 朝食

8:15 おつとめ練習

9:45 プール

所 感 11:45 昼食 解散

室内オリンピック、バイキング、プール皆、喜びました。

▼多古浦隊

実施日 25年8月9日(金)～10日(土)

1泊2日

参加者数 少年会員4人 育成会員3人

合計7人

内 容 朝づとめ、夕づとめ、お風呂、ゲーム等

所 感

子ども達が来年も来たいと言ってくれた。

▼福勇隊

実施日 25年8月11日(日)～12日(月)

1泊2日

参加者数 少年会員5人 育成会員4人

合計9人

内 容 朝づとめ、夕づとめ、ひのきしん、

神様のおはなし、お風呂、食事、夏休み宿題等。

▼富士隊

実施日 25年8月20日(火)～21日(水)

1泊2日

参加者数 少年会員11人 育成会員5人

合計16人

プログラム

20日(火)

PM 5:00 集合

30 夕食

6:30 夕づとめ

40 お話、ゲーム10:00 就寝

21日(水)

AM 6:00 起床

45 ゴミ拾い、写真

7:00 朝食

所感

登校拒否をしていた子供が、KOGの参加は無理であったのにお泊まり会に来てくれて大変嬉しく思う。

修養科終了生の声



修養科を終えて

呉福分教会 井上隼一

私は修養科に来て本当に良かったと思っと思っています。修養科に入る前は朝起きるのも遅く怠けた生

活をおくっていました。修養科の規律ある生活の中で生活のリズムが改善されました。入って間もない時はひのきしんをあまりしなかったのですが、途中から自ら行うようになりました。詰所で3人で一緒に生活する中でも、自分の癖、性分を見させていただき、あいかわらず嫌いなのは変わりませんが、ずいぶん丸い心に近づけたのではないかと思います。子どものおちばがえりの時には、炊事本部のひのきしんをさせていただき、そこで自分の非力さや体力不足だなと感じ、看護師として働きたいならもっと力をつけなければならぬと思います。修養科が終わったら勉強ばかりでなく筋トレもやっついでいこうと考えております。炊事本部では、非力さや体力のなさを感じただけでなく、仲間の大切さを改めて感じる事ができました。幸い体力仕事にへばっていた時も同じ煮炊きのメンバーが励ましてくれたり、いろんな格好で写真をとったり、とても楽しませてくれたおかげで、無事こどもおちばがえり期間、炊事本部の煮炊きを休まずやりとげることができました。炊事本部のひのきしんが終わってからも煮炊きメンバーには仲良くしてくれて、本当に楽しい毎日をおくることができました。煮炊きメンバーだけでなくクラスやメンバート、ひのきしんや授業をうけてみんなどごく面白いし優しいから、めんどろなひのきしんや授業も楽しく乗り超えていけたのだと思

います。今期、このメンバーで過ごせたことに感謝して、また皆に会えるようにたまにはおちばに帰るのもありかなと考えております。皆と出会えて本当によかったです。他に良かったと思つたことは自分の中の天理教への考えが変わったことです。修養科に入っただけでなく天理教のことが嫌いでしたが、おさづけの拝戴が近くなるにつれて用木としての責任を感じはじめ、修養科修了後はお道から遠ざかろうと思っていたのが、おさづけをさせてもらう以上は、しっかりおつとめをしなければならぬと心定めました。さらに感話大会で私の好きな女の子が「天理教は心の支えです」と言っており、その話に胸をうたれた天理教が嫌いという考えが変わってきました。前は三ヶ月経ったら、すぐに帰りたいと思っていたのが、今では同じメンバーでもう三ヶ月くらいやりたいなんて考えることもあり、修養科が終わることに対して寂しさを感じるばかりです。今回の修養科で学んだことや得たことを終わってからも活かしながら、所属している教会に貢献し、おさづけをとりつげる人になるべくおさづけをさせていってほしいと思います。三ヶ月間、教養の先生方や詰所の先生方、学校の先生方、教会の会長さん達、詰所や学校の仲間達に大変お世話になりました。ありがとうございます。

楽しく勇んでつとめます

品治分教会 高橋 秀行

まず最初に、修養科生活を最後まで通れるかどうか不安でいっぱいでしたが、身上・事情で誰一人欠けることなく通らせて頂いたことに感謝しています。自身出生の時、無い命を助けて頂き、特に目立った障害もなく今日まで生かさせて頂いたことに感謝しながら、日々を歩ませてもらっています。その思いがあったからこそ、訳もわからず勧められて入った修養科生活も、感情に振り回され過ぎず普通に楽しく過ごせたのではないのかと思っています。初めて詰所の教養掛の先生と顔合わせをした時は、怖い先生だなあと思っていました。だが打ち合わせをしていくうちに、先生といっても肩肘張らなくていいんだ、と思いました。詰所ひのきしんはゴミの回収担当になったわけですが、最初は要領がわからず時間が足りないと思うこともしばしばありました。そんな中にも同じ期に修養科に来られた二人の方との生活が始まりました。最初は二人の考えが理解出来ない事も多々ありましたが話しをしていくうちに、彼らには彼らなりの考え方、もの見方があるのだなと分かるようになりましたが、その最初の一週間が一番長く感じました。

修養科の授業では、教理、お手ふり、鳴物を学ぶわけですが、十年前に別席の話を聞かせて頂いた時と比べられない程の濃いお話聞かせてもらい、その中に今までは曖昧でわからない事がたくさんあった事について、少しずつ疑問が解けていき、別席を運び用木となれただけでは何か足りないことが修養科生として三ヶ月を過ごす内に、だんだんと見えてきました。又、最初の頃不安でいっぱいだった自分に対する励みになり、色々と前向きに考えられるようになり、相手方の言われる真意のように気付き始めました。お手ふり授業、修練の時間に憶えたいという気持ちがあったお陰で、先生の厳しい一言でもその時間が一番楽しかったのは今でも心に残りそれが、自身の活力となつていきます。鳴物については一つ一つ丁寧に教えて頂きました。二ヶ月目から笛の練習が始まった訳ですが、音が上手く出ず焦りもありましたが練習を重ねていくうちに良くなり、長く吹けるようになった頃には鳴物総合練習となり、適度な緊張のお陰で楽しく吹けました。自分の組では、色々な身上・事情を抱えられている中にも皆さん勇んで勤められていて、特に何もなかった自分は「無事に過ごせているのだから頑張らない」と思いながら自身の今までを省りみながら「何一つにしても楽しく勇んでいければいいのだ」と思える楽しい三ヶ月間を過ごさせて頂きました。最後に、

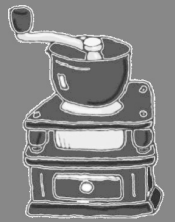
自宅に帰ってからは、やはり教会参拝が出来る日を増やしたいと思いました。

若い方と共に

松都分教会 糸川 弘美

此の度修養科の八六六期に仲間入り、無知識に近い状態で入りました。六月、七月は雨も少なくて温度が高くなり大変でした。おちばで親神様のひざ元で御守護を頂き無事に通らせて下さいました。天理教の親神様の話し。教祖五十年のひながたを三ヶ月聞かして頂きました。教祖はやしろになられて親神様の言葉を人間に取り次がれ、又、世界中を助けるために御苦労なされた事が良くわかりました。詰所での生活は、孫の様な年齢の二十八才、二十三才の若い二人で良く年寄りの自分に合わせてくれました。自分も二人の足を引っぱらないようにと思ってきました。手踊り、鳴物練習もなか／＼覚えられず、教養の先生にも手取り足取り随分面倒掛けました。修養科は出来たら若い内に入った方がいいようですね。これから地元に戻り今まで習った事を思い出したり、本を見たりして、教祖百三十年祭に向かつての旬と聞かしてもらっており一人でも多く教会に参拝してもらいたいと思います。賑やかな祭典に成る様に頑張ります。

談話室



感謝の日々

直轄 谷本篤子

9月15日に姪の一年祭をさせていただきました。

病状が落ち着いた寛解期かんかいきには笠岡の教養掛の先生、修養科生、詰所の方々、クラスの先生、クラス同期生、多くの方々に助けて頂き、充実した楽しい時間を修養科生として過ごしたようです。

病氣と必死に闘って居る数年は、数回お見舞いに行っただけでした。最後の十数日は心待ちにしてくれていたのを感じましたので、見守る事しか出来なかったのですが、病室に毎日行きました。目の前で御飯を美味しそうに(無理して)食べてくれたり、母(なっちゃんなつちゃんの祖母)に用事が有り連絡している、「携帯を貸して」と言いますので手渡すとお礼を言っていました。

亡くなる前日には院内レストランでカツカレーを食べたそうです。(信じられないと思いますが事実です。)

大出血する前にタオルケットを少し汚しただけで、12年10月21日出直しました。用事が有り娘と息子が会社を休んでおり家にいました。21日は私も会社を休みにしていました。気兼ね無くなつちやんと一緒にいる事が出来ました。神様の不思議なご守護だと思えました。私へのラストメッセージは「天理に帰ります」でした。この言葉は神様からの私への言葉だとすれば反省しなければいけません。

理の親からは「にをいがけに出向かなくても自然と人が出向いてくれる人となって下さい。」と大変難しい課題をいただいておりますし、先ず自分が出来る事は教会への参拝だと思いい大教会の直轄祭に参拝していると大教会の奥様から「自分が親からの徳を使いきったと思うなら親の立場である貴女も子供さんのために頑張らしましょうね」と温かい励ましの言葉を掛けて頂きました。

また事ある時に何時も理の親からは「身上・事情が起きるのは神様が貴女に気付いて欲しいからで、神様に可愛がられているからです。節から芽を出せる人に成って下さい」と聞かせて頂いております。色々な事が有つてもどう受けとるかで状況は随分と変わる事に、この頃気付く様になりました。大難は小難、小難は無難に日々過ごさせて頂いてるのを感じたいします。

註) 寛解期かんかいき… 症状が一時的に軽くなったり、消

えたりしている時期。寛解とは、症状が落ち着いて安定していること。寛解期は必ずしも完治した状態ではなく、病氣が再発する可能性もある。

英語講習会に参加して

福廣分教会 佐々木 三枝

やっぱり参加したい。教会の祭典日と重なるため断念していた講習会でしたがどうしても諦めきれず当日の朝電話をかけました。祭典後大教会に着いたのは14時半過ぎ、途中参加にも関わらず笑顔で迎えてくださり早速中学生のクラスへ。しかし大人は私一人、正直戸惑いました。

学生時代好きだった英語も、あれから20数年すっかり忘れていましたが、「本で勉強するより間違えても話しただけ上手くなるから」と励ましてくださり、繰り返しやっていくうちに気持ちがいきました。

皆との食事はとても賑やかで婦人会の方々の心温まるメニューに感動し、メインイベントのコンテストはメンバーに支えられ自分達で考えたものを発表する事が出来て達成感に包まれました。短時間で考えたシナリオには読み方のわからない単語にふりがなをうち、それも思い出の1つとなりました。

ハワイ、タンザニアからのゲストとの交流では、

新鮮な内容が盛り沢山でもっと英語が話せたらどんなにいいだろう、いろんな話が出来て仲良くなれて自分の視野も広がるのにと改めて英語の魅力を感じました。ウクレレの音色、英語の歌、とても心地良い時間を過ごす事が出来ました。

こんなに近くに海外の人と触れ合える場所があつたなんて。世界中から知らない人が同じ場所に集まり同じ時間が共有出来る事の不思議さと有り難さを嬉しく思いました。短期間ではありましたが新しい経験と交流が出来てとても有意義な2日間でした。この経験が何かのきっかけになればと思っています。参加出来て本当に良かったです。沢山の方々のお心と支えを頂き感謝しております。楽しい時間を有難うございました。

おやさと研修会に参加して

芳井分教会 佐藤 和代

今年6月末、私は教会長夫妻おやさと研修会に参加させていただきました。

講義内容も、自分の置かれている立場や、抱えているおたすけにより選ぶことのできる分科会も数多くあり、充実し、それぞれのニーズに合わせた内容で、こんなに内容の濃い研修会があるんだなあ！と始終感激しております。

そして、ほとんどの講義が班編成での振り返り

という時間を設けていて、勉強した後には、すぐ班のメンバーとの意見交換ができるようになっていました。

私はなんとか班の方々の貴重な意見を聞かしてもらいたいと、講義の後のこの振り返りの時間が待ち遠しくなりませんでした。

同じ班メンバーの中には、「今、130年祭を前に諭達が発布されて、皆周りの人を助けさせていただこう！という句や。諭達では、教会のものだけでは、足らん！ようぼく一人ひとりにもなんとか動いてもらいたいと書いてある。なのに現状は動いていない。この句にひとりでも多くの人をおぢばへ導かんといかんのや！助けさせていただかんといかんのや。私らあ、毎日お助けに回らせてもらっても足らんからな。私はこの講習会でもみんなの火付け役になりたいと思うてる！動こうや！」こんな事を言われました！

私は圧倒されてしまいました。天理教人として初めてこんなに熱い人を見ました。そしてその人の近くに座り、その語りを聞かしてもらい、ただ嬉しくて、「私も何かさせてもらいたい。どうしたら、この人と同じ天理教になれるのかな？」と、やや興奮気味な研修会となりました(後で聞いたら、その方はとてもすごい布教師の方でしたから、お話をただだけでも光栄でした)。

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽8月25日付「時報歌壇」

・福満分教会前会長夫人 福島悦子さん

落したり拾いあげたりうたの種

照りつく畑の草とるわれは

▽9月1日付「時報俳壇」

・海松ヶ岡分教会 池田広子さん

水もやりぼんの気休め夏盛り

▼養徳社発行『陽気』誌九月号、「道柳」より転載。今回の課題は「実」。

▽佳 詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

実の声聞いて思案のたすけ道



胡 弓	三 味 線	琴	小 鼓	す り が ね	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぽ ん	笛	て お つ と め を ど り				地 方			役割 区分	講 話	扨 者		祭 主	
									門 脇	田 中 ま す み	大 教 会 奥 様	上 原 繁 道	岡 本 久 善	大 教 会 長 様	内 海 史 郎			上 原 志 郎	中 村 剛		岡 崎 和 夫
上 原 順 子	虫 明 好 美	今 川 佐 智 子	杉 原 博 之	岡 崎 真 一	谷 内 伸 自	河 原 節 喜	三 島 渉	高 木 昭 祥	門 脇 郁 子	田 中 ま す み	大 教 会 奥 様	上 原 繁 道	岡 本 久 善	大 教 会 長 様	内 海 史 郎	上 原 志 郎	中 村 剛	岡 崎 和 夫	大 教 会 長 様		
笹 尾 一 美	高 木 孝 子	内 海 安 子	吉 岡 誠 一 郎	上 原 道 浩	中 村 敏 德	山 田 敏 教	横 山 逸 郎	淺 野 明 教	岡 崎 豊 子	森 本 富 美 子	佐 藤 香 苗	今 川 昌 彦	中 島 誠 治	岡 崎 和 夫	山 野 弘 実	笹 尾 正 治	吉 岡 壽	十月講話	指 図 方	贊 者	
三 島 照 美	中 村 初 美	門 脇 加 津	赤 木 素 志	森 本 忠 善	岡 崎 輝 彦	虫 明 立 生	渡 邊 隆 夫	武 内 清 明	横 山 小 智 榮	谷 内 美 知 子	武 内 正 美	田 中 隆 之	門 脇 元 教	中 村 剛	佐 藤 真 孝	岡 崎 真 一	中 村 邦 義	大 教 会 長 様	上 原 繁 道	内 海 史 郎	赤 木 素 志

立教百七十六年 八月月次祭 祭典役割表

<婦人会>

○女子青年大会 (おぢばでは10年ぶりの開催)

期 日 11月3日(日)~4日(月)

- ・女子青年は100名の心定め(大型バス2台)
- ・3日:観光
- ・4日:行事参加
- ・婦人会の委員部長・一般の婦人会員も合わせて団参
- ・3日:別席とおぢばの伏せ込みひのきしん
- ・4日:女子青年大会に参加、詰所のひのきしん

<青年会>

○第89回 天理教青年会総会

日 時 10月27日(日) 午前10時 本部中庭

- ・笠岡分会は9時30分に南支所前集合

<一れつ会>

○一れつ会扶育出願時期の変更

- ・本年から、大学・高校の出願時期が従来と逆になりました。

提出先 各教区の教務支庁

出願期限 大学:10月1日~31日

高校:11月1日~30日

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にハ、せかいぢう々ハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで」との親心のまに〜 天然自然のお働きと身体の自由を御守護下さるだけでなく 人類の目的である陽気ぐらしへと常にお導き下さっております事は誠に有難い極みでございます しかしながら多くの人々は夫々の都合の上から天災や或いは天罰だと思ひ誤り苦しみに喘いでいます事は誠に残念でなりません

私達道の子は「成つて来るのが天の理」とお聞かせ頂き 全てはおたすけを急ぎ込む親心の現れと心の向きを陽気ぐらしへと立て替えるべく日々朝夕に御礼申し上げますと共に 人々の心も陽気ぐらしへと向けるべくたすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てたるおつとめをつとめる日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心たすけ心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて八月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には残暑厳しき中も厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃のたすけ心を 一万三千四百二十五枚のおたすけお願いカードに込め参拝する皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年のごどもおぢばがえりも連日猛暑の中ではございましたが 雲も多く時々にも雨も降った為 昨年のような痛みを感じる程の暑さではありませんでした お陰で千三百六十八名の帰参者も大きな事故や怪我等もなく喜び一杯のひとときを味わわせて頂く事が出来ました 又引き続きの英語講習会や学生生徒修養会(高校の部)の参加者も共に昨年より多く 道の後継者育成に弾みをつけさせて頂く事ができました 誠に有難うございました 明日から三日間少年会で野外キャンプを行わせて頂きます 何卒事故怪我等なく皆喜び心一杯にお連れ通りの程をお願い申し上げます

更には又 来月はにいがけ強調の月であり月末は全教一斉ににいがけデーでございます 本年の三分の二が過ぎようとしている今 今日までの歩みを振り返り 教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切つての歩み出しの年にふさわしい歩みかどうか反省し 残された四ヶ月 親に喜んで頂ける成人の歩みにすべく にいがけ強調月を足掛かりににいがけ・おたすけにとたすけ一条の上に邁進して行く所存でございます

何卒親神様には 旬々にお掛け頂く親の声をたよりと成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さい まして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 人々の心を明るく澄ませお互いたすけ合つて お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

ごどもおぢばがえり 詰所内クイズ当選者

小学校低学年

- | | | | |
|----|-----|----|-----|
| 1. | 甲井 | 豊田 | みつぎ |
| 2. | 甲井 | 林 | 柚希 |
| 3. | 甲井 | 大下 | なつみ |
| 4. | 錦ヶ原 | 佐藤 | なつあ |

大教会だより

II 教会指令 II

◎移転建築願・臨時祭典願

金浦分教会

*移転先

笠岡市吉浜943番地の1

*移転先

笠岡市大冢1818番地1

☆鎮座祭 立教177年6月7日

☆奉告祭 立教177年6月8日

立教176年8月26日承認

◎第866期修養科

自 立教175年6月1日

至 立教175年8月27日

*教養掛

三ヶ月間 田林久嗣

一ヶ月目 (東悠分教会長)

二ヶ月目 田中一矩

三ヶ月目 三阪泰人

(福岩分教会長)

余村健

三ヶ月目

*修了者

(多古浦分教会長)

松都 糸川弘美

品治 高橋秀行

呉福 井上隼一

◎教人資格講習会全期修了者

立教175年9月10日終講

木津和 丸山優樹



暑かった「こどもおちばがえり」も無事、終わりました。

私達の住んでいる町では、だんだんと地域に子ども達の姿がなくなっている状態で、小学校では5年前から少子化という事で、子ども達はバスで15分位の所の小学校に行く事となりました。「こどもおちばがえり」のある7月はすぐそこに来ているのに。

6月初め、小学校の役員の方から「天理教にはいつ行かれるんですか」

と電話がありました。「7月終わりの金、土、日です」と言うと「日曜は学校行事がありますよ」との事でした。そこで素早く「月、火、水に変えますよ」と答えると「ありがとうございます。うちの子、お願いします」との事。私にとって有難く、嬉しくなる言葉でした。

その日を機に、その方が皆に声を掛けて下さったの分かりませんが、親子で参加票と費用を持って来て下さる方もありました。一人、また一人と増えていくのは嬉しい事でしたが、頭の中では子ども達にケガがなく無事、帰らせて下さい、と思う日々でした。

しかし、終わってみれば、笑顔で我家に帰って行きました。「また来年も行くよ」とのひと言を残して。

ありがとうございます。お父さん、お母さん。本当にありがとうございます。

夢多き子ども達。来年もまた元気でおちばに帰って行きますよ。疲れたぞ！ (と)